



倉本 聰 第一回監督作品

時計

Adieu l'Hiver

9月5日(土)

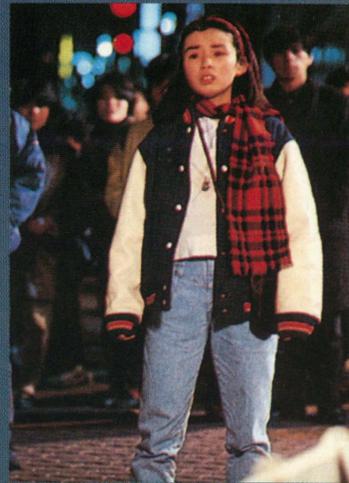
上映時間 10:30 2:00 6:00

入場料 前売600円 当日800円

あの時、泣いていた君が
……いま、アデューリベール

さよなら冬。

逢いたい！別れた父の写真を胸に
少女は白いリンクを舞った——



いしだ あゆみ
中 永 嶋 朋 子
石 島 敏 行
陣 田 内 友 則
岡 室 田 真 澄
垂 井 田 日 出
柴 五 月 悟 男
五 田 中 み 夫
渡 田 邦 衛

製作 影久 隆彦
脚本 影久 隆彦
監督 影久 隆彦
監修 影久 隆彦
演出 影久 隆彦
撮影 影久 隆彦
音楽 影久 隆彦
編集 影久 隆彦
美術 影久 隆彦
衣装 影久 隆彦
特殊効果 影久 隆彦
字幕 影久 隆彦
宣伝 影久 隆彦
経理 影久 隆彦
制作 影久 隆彦

LIVE 宗次郎

大黄河の流れ オカリナの音色。
この不思議な融合が NEW AGE をリードする。

9月29日(火)6:30PM

調布グリーンホール

入場料/S席 3,000円 A席 2,500円 B席 1,500円

主催 調布グリーンホール文化事業団
お問い合わせ……0424(81)7611

前売所/グリーンホール 0424(81)7611 トキワ楽器 0424(82)8047 ミュージック・メト 03(309)5063
京王インフォメーションKIND(新宿店、明大前店、桜ヶ丘店、多摩センター店、吉祥寺店、つつじヶ丘店) 0424(84)0039
チケットぴあ 03(237)9999 チケットセゾン 03(980)6666
(映画のみ) 西友調布店 0424(85)4111 西友府中店 0423(63)1221



倉本 総 第一回監督作品

時計

Adieu l'histoire

製作/羽佐間重彰 企画/日枝 久

プロデューサー/岡田 裕、角谷 優

撮影/前田米造 監督・脚本/倉本 聡

サントラルP盤(ハラルド・エース) (原作シナリオ)理論社刊

協力/品川プリンスホテル/スケートセンター/東亜国内航空



「時」をめぐるドラマを創りたい。
「時」というものが、たしかに流れていくドラマを撮りたいと倉本聡は思った。

9月29日(火)6:30
調布グリーンホール
S 3,000円 A 2,500円 B 1,500円

宗次郎

宗次郎 プロフィール

昭和29年10月10日生まれ(32歳) オカリナ奏者
群馬県館林市出身、現在栃木県芳賀郡茂木町在住。
麻校となった校舎に妻と大四匹、猫一匹と暮らし、自らオカリナを制作している。オカリナの製作は、自らが土を選び窯に火をいれ続けているが、ひと窯で作れる一〇〇個のオカリナのうち自分で満足がゆくのは三、四個がせいぜいだという。わざわざ岐阜の粘土を使うことや、益子焼きの地にも近いあたり宗次郎は陶芸家の風情も備えている。



なぜいま宗次郎なのか。

◎高い芸術性と時事性。

たとえようもないほど美しく、しかもスケールの大きな曲を創造する宗次郎。
NHKの大型ドキュメント番組「大黄河」の音楽担当者に選ばれたのは当然、といえは当然の帰結であった。

◎自然児のような風貌と、寡黙で飾り気のない素朴な人柄。
一度合った人は「忘れられない」といい、インタビュアした人はその不思議な魅力のとりこにならない人はいない。

◎既存のジャンルでは語れない、幅広い音楽性。
彼の音楽は、あらゆる世代の心をなごませ、ポップス、ロック、クラシックなど幅広い音楽ファン層の支持を受けている。

◎オカリナという楽器の特殊性。
シンセサイザー全盛のいま、あえてもつとも原始的な楽器、土笛の音色が人々の心をつかんだ。

◎生活に裏打ちされた重み。
彼は単なる演奏者にとまわっていない。オカリナは山間のアトリエで自らの手で焼き、文字どおり生命を吹き込むようにして造り上げている。十数年、彼の手によって造られたオカリナは数万個におよび、その中で彼自身納得したのは数個だといふ。

この頑固なまでの厳しさと、手にとったオカリナへの愛情。宗次郎にとってオカリナを造ることが人生であり、それを表現することが自分の生きさまの表現でありつつけている。

★駅STATIONや「火宅の人」と今一番のつてる女優いしだあゆみ好演!

一人の女の子 中嶋朋子 が、一つの歌が(時は過ぎてゆく)金子由香利)倉本聡の心を捉えついにひとつの時をめぐる愛のドラマが誕生した。この「時計 Adieu l'histoire」は「駅 STATION」TVドラマ「北の国から」など数多くのヒットドラマを手がける人気脚本家、倉本聡の第一回監督作品である。

「時」は人を老けさせるが、同時に美しくも厳しくもする。この本物の「時の美しさ」を映画にしたいと思う倉本聡の情熱が、日本映画史上いまだかつてないドキュメンタリーとドラマが重なった映画をうむことになった。1982年から5年の歳月、「北の国から」の名子役蟹(中嶋)の9才から14才までの成長を、スクリーンにうつらしたすことによって、観客にまがいがなく本物の感動をよびおこすストーリーは、スケート選手をめざす夕子、中嶋の「女の子から」「少女」へと成長する過程に展開する親子の夫婦のそして男と女の愛のドラマだが、幸福、不安、裏切り、絶望……5年の「時」のドラマが母娘に残酷なまでに押しよせてくる。そんななかにも、思いやり、優しさ、いじらしさなどさまさまな親子の微妙な心のゆれ動きを倉本聡独特の視線のあたたかきでリカレに描いている。夕子は9才。フィギュア選手とアイスホッケー選手だった両親もいまは離婚し、スケートセンターでコーチする母、令子(いしだあゆみ)と二人暮らしであった。夕子の父(渡哲也)はアイスホッケーの極東製紙チームの監督をしているが、夕子は新聞記事から切り抜いた父の写真を自分のロケット時計に大切に

に入れている。そうした父への思いが、いつしか夕子をスケートの世界に誘いこんだ。

ある日突然、夕子にスケート映画の主役の話がきた。若手映画監督木谷大介(永島敦行)によると、スケート選手をめざすひとりの少女の5年間の軌跡を撮るといふ。最大のヤマは、5年後のフローズンカップ大会になるが、はたして9才の夕子にできるだろうか。夕子の特訓の日々と撮影が快調に進む一方、令子と木谷の間にはしだいに愛が芽はえていくのだった。

★「北の国から」蟹の成長がスクリーンに

この映画の最大の魅力は、中嶋朋子の9才から14才までの実際の成長を追っていることである。「北の国から」であのいじらしいかわいいた女の子を演じた中嶋朋子は、9才の時突然スケートをしないかと言われたことから夕子と同じように5年間スケートの特訓をうけた。映画のハイライト、フローズンカップにむけてみせた朋子の根性は、子役から女優へとひとまわり成長させた。これからは楽しみな女優の誕生である。

★渡哲也11年ぶりの映画出演

「やくざの墓場くちなしの花」でフルーリボン主演男優賞以来11年ぶりの映画出演となる渡哲也は、日活ニューアクション代表スタ。アイスホッケーの鬼コーチであり、夕子の父親を演じて、その存在感は他を圧倒している。



9月5日(土) 10:30 2:00 6:00

調布グリーンホール 前売600円 当日800円